

NEWS

永井会長に聞く

愛産協の発展にご尽力されている永井会長に、いくつかの質問にお答えいただき会長の本音に迫りました。

Guest：愛産協会長 永井良一氏

Interviewer：広報編集委員長 中野兼司氏

中野 日頃協会員の皆様が永井会長に一度聞いてみたいと思っている質問について、お答えいただきたいと思います。よろしくお願いします。

永井 わかりました。よろしくお願いします。

中野 では、愛産協の会長を長年にわたり担われ（平成23年6月1日三代目会長就任）、日々のご苦労も多いと思われそうですが、率直なご感想をお聞かせください。

永井 この業界に従事して感じたことは、廃棄物処理を専門にしている業者の方は少なく、廃棄物処理を兼業としている方が実は多いのです。それゆえ両者の考え方の違いについて、擦り合わせをすることに苦慮することがあります。ただ、それを苦労と感じたことはなく、それが私の役割だと思っています。また今年には廃棄物処理法の改正がありました。昭和45年に制定されたこの法律は、廃棄物を規制することから始まっているため、問題が起こると、規制、規制と締め付けられてきました。しかしそれは実際の業務に即した法律になっておらず、現実はその中で苦慮しながら運営されており、実態と法律に大きな隔たりがあります。この状況を打破するためにも、法律の改正を行うための取組として、47都道府県



協会の会員が一致団結をして、自分たちの考えを一本化し都道府県へ、国へと働きかける努力をしました。今回私自身も法改正に携わり法律の改正の難しさを実感しましたので、今後は更なる会員の結束力の強化を図り適正処理の推進等、会長の責務を果たすべく業界の一層の発展に寄与していきたいと考えております。

中野 ありがとうございます。では永井会長がお考えになる愛産協の役割、及び今後の愛産協としての方向性などをお聞かせください。

永井 愛産協は廃棄物処理専門のプロ集団です。会員の多くは廃棄物処理業が社会において重要な役割を果たしていることを認識していますので、廃棄物の適正処理の推進、及び適正処理後の資源化に向けて各社は最新の技術開発に取り組んでおります。資源循環型社会を構築する上でも欠くべからざる産業廃棄物処理は、愛産協が先頭となって問題解決に向かって取り組むという姿勢を、前面に掲げていく方向にしていきたいと考えています。しかし大きな問題として、我々に対する信頼が築かれていないという現実があります。信頼を築くためにはどうすればよいのか、この問題は我々協会員が真摯にとらえ、責任のある行動をとらなければならないことを忘れてはいけません。



中野 ありがとうございます。では次の質問になりますが、永井会長は全産連の副会長及び法制度対策委員会の委員長という要職にあるお立場から、法改正に関わられました、業界の要望は反映されたのでしょうか。

永井 今回廃棄物処理法改正の中で、私は全産連の法制度対策委員会の委員長という立場から、中央環境審議会循環型社会部会廃棄物処理制度専門委員会の委員に任命されました。5年に1回の法改正に備え、1年半前ぐらいから全国の産廃協会に問題点の洗い出しをするように伝え、その内容を法制度対策委員会でき取りまとめました。廃棄物処理法としては27項目、他法令2項目を合わせて29項目を意見書として国へ提出しました。意見書は大方のものは反映されており、これは今までにない環境省の対応であり、全産連でも全国の意見を取りまとめた苦労が報われた明るい結果となりました。

中野 何故そのように変わってきたのでしょうか。

永井 提出した意見書の27+2項目に関しては、実態をくまなく調査して問題点を出しました。我々が廃棄物処理業をするうえで本当に不合理だと思うこと、改善しなくては適正処理が行えない、という根幹に関わる問題点が何故問題であるかを明確にした意見書だったからでしょうか。

中野 実態の問題点を具体的に分かりやすく提案されたということが、大きかったということですね。

永井 そうです。本当は27項目は全部改正してほしいところですが、法律というのは一度制定されると変えることが本当に難しいのです。廃棄物処理法はおおよそ50年になりますが、その間に何度も改正、改正が行われ、本当に分かりにくい法律になっています。問題点に苦しめられていた我々だからこそその肉声である意見書は、よりの確な改革内容として法の改正に反映されたのではないかと思います。

中野 法改正の一助を永井会長をはじめ全産連の要職の方が担われ、業界として評価されたのですね。ありがとうございます。ところで永井会長ご自身が青年部のご出身ということですが、今後を担う若手の皆さんにメッセージがあればお聞かせください。

永井 いつも言いますが、社会から信頼を得ることが大切であります。またその前に行政から信頼を得

ることも重要であると考えます。青年部はもっと行政の若手の方と交流する機会を作り、本音で語れる時間を持てるような努力をしてほしいと思っています。これからのリーダーとして成長するためにも、立場を超えた人のネットワークを大きく広げ、我々の仕事への理解と信頼につなげてほしいと思っています。そのためにも全国に先駆け青年部の会長を愛産協の理事として迎え入れ、親会も全面的にバックアップしています。清水善一初代会長の青年部創設への想い“これからの業界を担う青年部”を、今後とも継承して欲しいと願っています。

中野 ありがとうございます。最後に愛産協会員の皆様にもメッセージがあればお聞かせください。

永井 産業廃棄物処理業に携わる皆さんには、誇りと自信を持ってほしいです。多くの力が結集すれば大きな改革ができ、未来へとつながります。力を合わせ協働することにより、協会発展=会員企業発展へとつなげていきたいと考えております。

中野 仕事に対して誇りを持つ意識の高い方々が集まることにより、将来に向けた改革ができるということですね。

永井 そうなのです。信頼を得た大きな改革は、いま以上に会員企業を大きく飛躍させてくれると確信しております。

中野 ありがとうございます。

後記

他にもダイコー事件に関して、排出事業者責任を社会に対して明確にされた経緯についても語られました。また事件の報道について話した言葉が、歪曲して報道され誤解を受けた事、逆に他のメディアの見解が追い風となりボランティアとして行った撤去作業が産廃業界の正しい評価につながったことなど、溢れる想いを熱く語っていただきました。ありがとうございます。

「永井会長に聞く」では、皆様からご質問を承っております。産廃業界の動向や、廃棄物処理の今後の取組や流れについて、業務における悩みや相談等自由にご質問ください。

・連絡先

FAX 052-322-0136

愛産協事務局 「永井会長に聞く」質問について